

精神看護学

専門分野

授業科目	対象理解とこころの看護実習	講師	氏名	戸田真理	開講 年次	2年次 後期	単位・時間	2単位 60時間
			所属	専任教員				
			実務経験	臨床看護師				
実習目的	精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された対象やその家族の理解を深め、精神の健康回復への援助過程を通して、自己・他者理解を深める能力を養う。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の病態及び治療目標を理解し、必要な看護目標を立案できる。 2. 対象の病的側面だけでなく、健康的側面についての情報を意図的に収集しアセスメントできる。 3. 対象の精神症状が日常生活に及ぼし影響を理解し、アセスメントできる。 4. 対象の特徴や病態、症状、治療、日常生活自立度、社会資源の活用、家族背景等の全体像について関連図に記載できる。 5. アセスメントの結果をふまえ、看護の方向性に沿った援助が実践できる。 6. 対象のセルフケアレベルを考慮した援助が実践できる。 7. 再構成の場面や動機を明確にし、自己の感情について記載できる。 8. 対象との関わりの場面から自己を振り返り、対人関係の傾向を捉えることができる。 9. 対象のパーソナルスペースを確保しながら受容的、共感的態度で関わるすることができる。 10. 対象の症状や行動に応じたコミュニケーションの工夫を行い関わるすることができる。 							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉法に定められた対象の治療環境(行動制限・入院形態)を見学し、精神科病院における看護師の役割を考えることができる。 2. 対象の安全な療養環境の確保(リスクマネジメント)と人権擁護について看護師の視点で考えることができる。 3. 対象が地域で暮らすために必要な支援(通院、訪問看護、地域連携、多職種連携)とは何かを検討できる。 4. 対象の生活維持に必要なセルフコントロールについての課題を考察できる。 							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中は積極的に質問や意見交換することができる。 2. 受け持ち患者に積極的にコミュニケーションをとることができる。 3. グループ間で協調できる。 							
実習期間及び実習時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：10日間 学内実習：3日目、7日目、10日目午後(各2時間)、4日目(6時間) 2. 実習時間：原則として8:30~14:30 							
実習内容及び実習方法	<p>(実習内容) 対象者1名を自己決定し、関わりの実践場面を考察する。 (ロイのアセスメント・自己概念/役割機能/相互依存 対象との人間関係の場面ではペプロウの理論を活用してアセスメントする)</p> <p>(実習方法) 対象者と行動を共にし、対象理解に努め、対象理解を実践する。 *詳細については精神看護学実習要領および実習オリエンテーション時の配布資料を参照してください。</p>							
実習施設	医療法人 恵愛会 福間病院							
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「評価規程」および「実習に関する規程」、「追実習および再実習に関する規程」に基づいて行う。 2. 対象理解とこころの実習状況及び試験結果を基に、評価表により100%評価とする。 							
テキスト	ナーシンググラフィカ 「精神障害と看護の実践」・「精神障害と看護の実践」							
参考文献	参考図書：医学書院 精神看護の基礎 精神看護の展開 MSE I・II 精神保健福祉							
留意事項	精神看護学実習では対象者の身体的看護も実践するが、聴診器等は病棟のものを借用する。不要な私物は持ち込まない。							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行います。							